

### 第37回みんなのタウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和8年1月24日(土) 午前10時30分～12時
- 2 開催場所 東小金井駅開設記念会館・マロンホール
- 3 参加者 市長及び市民3名
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 市長あいさつ (市政報告)
  - (3) 懇談 (フリーテーマ)
  - (4) 閉会

#### 5 懇談内容要旨

	件名	ご意見・ご要望等	市長からの回答等
1	物価高対策給付金について	物価高対策のお米券について、他の自治体ではどんどん進めているようですが、担当部署に確認したところ、小金井市はまだ検討中ということでした。現在はどうなっているのでしょうか。	国からはお米券が推奨されていますが、小金井市では、広く市民の皆さんに物価高騰の対策として使えるものを予定しており、来週の臨時会でこの件に関する補正予算案を出します。現金給付、ギフトカード、お米券、デジタル商品券、一般的な商品券等検討しましたが、それらの場合、それぞれ事務経費がかかり、中には事務経費が20%を超えるものもありました。それでは、市民の皆さんに渡る分が目減りしてしまいます。確かにできるだけ早くということが求められましたが、我々としてはできるだけ人件費を低く抑えたうえで、どうすれば早く配れるのかということを含め、慎重に検討していたため、時間がかかっておりました。現在は、できるだけ早く市民の皆さんに事業の効果が現れるように、現在、事業を構築しているところです。
2	小さなイベントのマッチングについて	商工会や商店街の方々と話しをさせていただくと、皆さん、小金井市のために様々な意向を持っていて、一つ一つの思いがもっと大きくなつたがりになって、大きな波になればいいのにと仰っています。私自身、地域で開催されている小さなイベント等の開催そのものをマッチングさせていき、もっと大きな動きになればいいと思っています。そういった、色々な方々から話を聞いて、一つの繋がりを持てるようなものをつくる窓口があるのか、もしくは、それが無いのであればつくるのか、つくることが可能なかをお伺いします。行政に全部お願いしたいわけではなく、個人が何かを始める時に横でつながっていきこうとしても、身元のわからない状態では話がなかなか前に進まないからです。「この人の行動は市が少し応援しています」程度で十分ですが、市に問い合わせると身元が確認できるようなものがあれば、安心してつながっていけるのではないかと思います。	マッチングという意味でいうと、私とその役割を担っているのだと思います。私は、イベントなどで活動をされている方々や、どういった活動をしているのかといったことは、その場でしか聞けないこともあると思っていますので、できるだけ現場に足を運ぶようにしています。そのうえで、あらゆる分野の市民の皆さんと関わり、提案を受けて様々なイベントを一緒に考えたり、そこで知り合った方々と話しをしたりしていますが、それを、行政の機関として行うというところまでの考えには至っておりません。市役所にそういった窓口はありませんが、例えば市民活動をしたり、地域に貢献したいということをお伺い合わせたり、具体的に始めたいときに相談したいということでしたら、市民協働支援センター準備室があります。
3	NPOを助けるNPOについて	NPOを助けるNPOのようなものをつくりたいとなったときに、それを市に応援していただけるような仕組みのようなものがあればと思うのですが、いかがでしょうか。	今はまだ「準備室」ですが、市民協働支援センターがある意味当てはまると思っています。行政とNPOなど非営利で地域のために活動するそれぞれの主体が、対等な立場で地域課題を解決するための活動を支援するのが市民協働支援センター準備室です。ただ、その機能もまだ十分ではありません。市民協働支援センターというのは、約12年前に「小金井市市民協働のあり方検討委員会」で検討のうえ答申をいただいたところから始まっており、場所や予算の関係で、現在は社会福祉協議会に設けてもらい準備室としています。新庁舎ができれば入る予定になっていますが、先ほど説明しましたとおりの状況ですので、完成を待たずに開始しようということになりました。そこで、答申は受けているものの、すでに10年以上が

			経過していることから、「小金井市市民協働支援センター再検討委員会」を立ち上げ、今まさに内容の洗い直しを始めたところです。
4	ふるさと納税による減収について	<p>ふるさと納税の影響で減収になっていることについて、以前のタウンミーティングで何か対策を考えたいと仰っていましたが、何か進展はありますか。新庁舎の建設は、当初の予算よりかなり上積みしていますが、それでも不調ということは、これからさらに予算を積んでいかないと無理だと思います。福祉などの市民サービスにもお金は必要ですし、歳入が減っているのが気がかりです。</p> <p>ふるさと納税の担当者を増やして、返礼品の案をもっと増やしてはどうですか。</p>	<p>新庁舎に関しては、もともとは84億円からスタートした事業です。現在の130億円から、いくら積むかという話になりますが、今後の財政需要、社会の状況、市民サービスの様々な分野のことも考えて、本市としてそういうお金を出せるかどうかという経営判断をしなければならないと思っています。仰るとおり、今年で言うとう9億円ぐらい、本来入ってくる歳入が、ふるさと納税として他市に流出していますが、甘んじて受けるわけにはいきませんので、対策を進めています。来月ぐらいには今後やろうとしている内容をお伝えできるかと思っています。</p> <p>人員を1人配置することで相応の収入が増えるのであれば、配置しても良いと思いますが、マンパワーが限られている状況において、人員配置はかなり戦略的にしなければならないところが実情です。特に福祉の分野において、相談対応が右肩上がりに増えているものの、人員は増やせておらず、職員一人当たりの相談件数が増えていくという状況にあります。</p> <p>全てを直営にしていたため職員数が多過ぎ、平成9年に退職金が払えなくなって、東京都から退職債という借金をしたという過去があります。そこから職員数を減らして人件費を減らす行財政改革を実施してきましたが、ここに来て国からも次々に新しい仕事が降りてきており、仕事は増えているものの過去の経験から、職員数を増やすことに対する抵抗感があったりします。</p> <p>例えば今、一般会計の1年間の予算は大体550億円ぐらいです。12年前は、まだ330億円ぐらいですので、1.5倍に増えています。では職員数が増えたかということ、非正規は増えています、正規職員数はほぼ変わっていません。</p> <p>小金井市は、外から見て魅力的な観光資源がそれほど潤沢ではありません。そこで、例えば体験型のようなものはできるのではないかと、私のほうからアイデアを出して検討しているところです。自前だけではできないという前提に立って、いかに周囲に協力を仰ぐかという発想で、いろいろ考えていきたいと思っています。</p>
5	浴恩館公園の活用について	浴恩館公園を、何かに活かすことはできないでしょうか。	<p>浴恩館公園の中にある浴恩館という建物は、文化財センターという郷土資料館として活用していますので、あそこで何かをするというのは難しいだろうと思っています。ただ、浴恩館は『次郎物語』を書いた下村湖人が「青年館」として青年を育成していた場所で、一部改築はしているものの、そのまま建物として残っており、そのテーマを生かして子どもたちが育んでいく場所にする、浴恩館という建物の歴史的な背景からストーリーが繋がっていきます。文化財センターの中にある文化財をどこかに移設して、浴恩館という建物を、テーマに合った使い方にしたらどうかという提案も受けており、それがまた小金井のブランドの一つになるのではないかと考えていますので、今すぐにどうにかするわけではありませんが、教育長ともどのようにしていくか話しをしているところです。</p>
6	公共施設の駐車場について	公共施設に駐車場が欲しいです。	御意見として受け止めさせていただきます。

7	ふるさと納税の返礼品について	<p>ふるさと納税の返礼品について、いろいろなアイデアを考えています。一例を挙げますと、「まちだシルクメロン」という、農地ではなく工業用地を使って、工業としてメロンの水耕栽培をしている会社があります。空き家になってしまっているような建物の中で、工業として水耕栽培でメロンを作るということです。高さ1メートルから1.5メートルぐらいのところに溶液を入れた水を張って育てると、本来は地面に向かって生えていく根が360度に生えて、一個ではなく複数個のメロンができるらしく、現在、非常に人気が上がりに入りにくくなっているということです。</p> <p>ふるさと納税のために人を一人雇用するのは難しいということですが、市民の間では、我々市民が実施して、それを行政に応援してもらえると前に進みやすいよね、という話をしています。応援といっても、お金ではなくいわゆる「お墨付き」ということです。</p> <p>メロンに関しては、かなり現実味のある費用のかからない方法で、あれは相当な収益になると思います。</p>	<p>投資、もしくは応援、何かの支援、一緒にやる、といったことによって結果的にふるさと納税が増えるのであれば、行政としては有難い話です。</p> <p>確か、ふるさと納税で返礼品を売り出すためにそういった仕組みをつくったという自治体はあったと思います。今そういった情報をいただきましたので、私も改めてそちらの方面もいろいろと検討したいと思います。</p>
8	職員の対応について	<p>平成28年から立川に住んでいた父親を私が介護することになり、住民票を小金井市に戻して現在家をリフォームしています。住民票を戻す際に、市民課で同一世帯か別世帯かを訊かれました。それで、どう違うのかを尋ねたんですが、それに答えられなかったんです。質問して選ばせるのに、なぜ答えられないのでしょうか。介護福祉課で訊くと、介護保険料の費用について教えてもらえるんですが、市民課でそれで選べと言われても、分からないまま選ぶのが納得いきませんでした。</p> <p>各部署そうなんですが、本当に分かっているエキスパートの人は福祉部門にはおられるけど、そういう方以外は何も分かっていないということになります。そういったことに、対策などはないのでしょうか。</p>	<p>今、市民課の窓口は委託でやっておりますので、情報を聞いたことに対してどう答えるかというマニュアルの問題なのか、もしくは対応した窓口の担当者の問題なのか、そこはよく分かりませんが、その選択によって何かを払う、払わないという状況が変わってくるということは考えられますので、市民課で問い合わせた人がそれに対する問いに答えられないというのは、やはりあり得ないと思います。どういう状況だったのかというのは市民課に確認をしていきます。</p>